

令和 3 年度教育課程進度計画表



関西医療学園専門学校
柔道整復学科(夜間)

分 野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	整形外科学		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	柔道整復学科(夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	医 師		

講義内容・目標	運動器の疾患・障害の基礎・診察・検査・治療・関節損傷・スポーツ整形・整形外科疾患別各論の知識を修得する。・整形外科学は骨折・外傷だけでなく、全身の運動器疾患(先天性も含む)を扱う学問であり、その治療にあたっては診断学が重要となります。講義では総論として診断、治療(保存的・観血的)を教科書だけでなく、X線(術前・術后)、MRI・CT 及びビデオを見ながら DISCUSSION し、理解を深めていきます。骨折、外傷などは柔整理論で詳しく取り扱っているの、各論では骨系統疾患、感染症疾患、骨端症、神経・筋系統疾患及び骨・軟部腫瘍などの整形外科特有の疾患の病態について理解することを目標とする。		
授業計画	1	運動器の基礎知識	
	2	整形外科診察法	
	3	整形外科検査法	
	4	整形外科的治療法	
	5	骨・関節損傷総論	
	6	スポーツ整形外科総論	
	7	リハビリテーション総論	
	8	疾患別各論：感染性疾患	
	9	疾患別各論：骨腫瘍	
	10	疾患別各論：軟部腫瘍	
	11	疾患別各論：非感染性軟部・骨関節疾患	
	12	疾患別各論：全身性の骨・軟部疾患	
	13	疾患別各論：骨端症	
	14	疾患別各論：四肢循環障害	
	15	疾患別各論：神経・筋疾患	

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上合格(1 0 0 点満点)

分 野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	外科学概論		
講義期間	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	6 0 時間		
学 科	柔道整復学科(夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	医 師		

講義内容・目標	外科学について総論・各論の知識を修得する。・外科学の範囲は広く、すべてを網羅することは不可能であるが、そのエッセンスとともに、日常診療にて、遭遇する可能性のある代表的疾患について学ぶ。また医療人として、必要である救命処置、患者診察において柔整師が初診する可能性がある疾患（骨折、狭心症、胃腸疾患の放散痛）について理解することを目標とする。	
授業計画	1	総論：損傷
	2	総論：創傷
	3	総論：熱傷
	4	総論：炎症
	5	総論：外科感染症
	6	総論：腫瘍
	7	総論：ショック
	8	総論：輸血、
	9	総論：輸液
	10	総論：消毒
	11	総論：滅菌
	12	総論：手術
	13	総論：麻酔
	14	総論：移植
	15	総論：免疫
	16	総論：出血
	17	総論：止血
	18	総論：心肺蘇生法
	19	各論：脳神経外科疾患①
	20	各論：脳神経外科疾患②
	21	各論：脳神経外科疾患③
	22	各論：甲状腺疾患
	23	各論：頸部疾患
	24	各論：胸壁疾患
	25	各論：呼吸器疾患
	26	各論：心臓疾患
	27	各論：脈管疾患
	28	各論：乳腺疾患
	29	各論：腹部外科疾患
	30	各論：腹部外科疾患

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上合格 (1 0 0 点満点)

分 野	専門基礎分野		
教育内容	柔道整復術の適応		
講義名	整形外科診断		
講義期間	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	柔道整復学科(夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	医 師		

講義内容・目標	外科的な処置の必要性・適応と柔道整復術の適応があるのかの判断ができる知識を修得とする。・柔道整復師は今後医療現場において整形外科医や、看護師、理学療法士などとともにチームとして機能しなくてはならない。そのためには医療現場での適否や外傷への対応、判断などの知識を深めることを目標とする。	
授業計画	1	柔道整復術の適否について
	2	損傷に類似した症状を示す疾患
	3	損傷に類似した症状を示す疾患
	4	損傷に類似した症状を示す疾患
	5	血流障害を伴う疾患
	6	末梢神経損傷を伴う疾患
	7	脱臼骨折
	8	外出血を伴う疾患
	9	病的骨折および脱臼
	10	意識障害を伴う損傷
	11	脊髄症状のある損傷
	12	呼吸運動障害を伴う損傷
	13	内臓損傷の合併が疑われる損傷
	14	高エネルギー外傷
	15	まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上合格(1 0 0 点満点)

分 野	専門基礎分野		
教育内容	社会保障制度		
講義名	社会保障		
講義期間	講 義		
単位数	1 単位		
時間数	1 5 時間		
学 科	柔道整復学科 (夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	社会保障制度についての知識を修得する。・柔道整復師に必要な社会保障および基本的倫理観を学び、現場における社会的責任と対応について学ぶことを目標とする。		
授業計画	1	社会保障	
	2	社会保障制度	
	3	国民医療費	
	4	医療従事者の職業倫理	
	5	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応	
	6	柔道整復師の社会的責任と対応	
	7	医療における情報と責任	
	8	まとめ	

成績評価	学修成果評価		
評価基準	6 0 点以上合格 (1 0 0 点満点)		

分 野	専門分野		
教育内容	基礎柔道整復学		
講義名	柔整各論		
授業方法	講義		
単位数	1 単位		
時間数	1 5 時間		
学 科	柔道整復学科 (夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	手指部の各論・実技など、柔道整復術適応の臨床的判断、高齢者及び競技者の外傷予防技術を修得する。・遭遇することの多い手指部の損傷を理解することで、施術可能かどうかの判断ができる対応力をも身につけることを目標とする。		
授業計画	柔整各論 (Ⅷ) 1 中手骨骨折 (骨頭骨折、頸部骨折、骨幹部骨折) 2 中手骨骨折 (基部骨折、ベネット骨折、ローランド骨折) 3 手根中手関節脱臼 4 基節骨骨折、中節骨骨折 (頸部骨折、骨幹部骨折)、掌側板付着部裂離 5 末節骨骨折 6 中手指節関節脱臼、指節間関節の脱臼 7 手部、指部の軟部組織損傷 8 施術の適応と外傷予防		

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上合格 (1 0 0 点満点)

分 野	専門分野		
教育内容	臨床柔道整復学		
講義名	救急医学		
授業方法	講 義		
単位数	1 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	柔道整復学科 (夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師 赤十字救急法指導員		

講義内容・目標	救急医療、災害医療の知識と技能及び柔道整復師として外傷の応急手当について修得する。・柔道整復師は外傷に対する応急処置の担い手として広く活躍している人材であり、救急医療の一端を担い、活用できる資格である。そのためにも救急医療に関する知識を幅広く習得する必要がある。救急医学に関して柔道整復師として最低限知っておかなければならない知識や技術、実際の臨床現場での応用的知識の習得はもちろんのこと、医師や救急救命士など業務範囲内の部分の内容も、自己判断能力を高めるためにも十分理解することを目標とする。		
授業計画	1	総 論	
	2	総 論	
	3	症候学	
	4	症候学	
	5	症候学	
	6	内因性疾患	
	7	内因性疾患	
	8	内因性疾患	
	9	外因性疾患	
	10	救急蘇生法	
	11	救急蘇生法	
	12	体位変換、観察、気道異物除去、止血法、搬送	
	13	救急蘇生法	
	14	AED を用いた一連の一次救命処置	
	15	特殊救急医療、救急医事安全管理	

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上合格 (1 0 0 点満点)

分 野	専門分野		
教育内容	臨床柔道整復学		
講義名	臨床各論		
講義期間	講 義		
単位数	1 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	柔道整復学科 (夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	運動器触診、物理療法機器の取り扱い、柔道整復術適応の臨床的判断（医療用画像の理解含む）の知識を修得する。・運動器の触診技術、各物理療法機器や取り扱い、X 線像の読影、超音波画像装置の使用について学ぶことを目標とする。		
授業計画	臨床各論（Ⅰ）		
	1	肩関節の触診	
	2	肘関節の触診	
	3	手関節・手部の触診	
	4	膝関節の触診	
	5	足関節・足部の触診	
	6	股関節・骨盤の触診	
	7	物療機器の取り扱いについて	
	8	X・CT 線像の概要	
	9	X・CT 線像の読影	
	10	MRI の概要	
	11	超音波画像装置の概要	
	12	超音波画像装置の使用	
	13	超音波画像装置の使用	
	14	超音波画像装置の使用	
	15	超音波画像装置の使用	

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上合格 (1 0 0 点満点)

分 野	専門分野		
教育内容	臨床柔道整復学		
講義名	臨床各論		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	6 0 時間		
学 科	柔道整復学科 (夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	身体部位別整形損傷各論の知識を修得する。・柔道整復師は整形外科医と同様に「運動器」の治療を行う。運動器全体の知識すなわち整形外科学全般についても基本的な知識を持っている必要がある。臨床各論Ⅱでは身体部位別各論を中心に学び、柔道整復学と整形外科学の相互理解を目標とする。		
授業計画	臨床各論 (Ⅱ)		
	1	身体部位別各論：頸部	
	2	頸部	
	3	身体部位別各論：胸部	
	4	胸部	
	5	身体部位別各論：腰部	
	6	腰部	
	7	身体部位別各論：肩部	
	8	肩甲帯	
	9	身体部位別各論：上腕	
	10	肘関節	
	11	身体部位別各論：前腕	
	12	前腕	
	13	身体部位別各論：手関節	
	14	手関節	
	15	身体部位別各論：手	
	16	手指	
	17	身体部位別各論：骨盤	
	18	骨盤	
	19	身体部位別各論：股関節	
	20	股関節	
	21	身体部位別各論：大腿	
	22	大腿	
	23	身体部位別各論：膝関節	
	24	膝関節	
	25	身体部位別各論：下腿	
	26	下腿	
	27	身体部位別各論：足関節	
	28	足関節	
	29	身体部位別各論：足	
	30	足趾	

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上合格 (1 0 0 点満点)

分 野	専門分野		
教育内容	臨床柔道整復学		
講義名	柔整総合学習		
授業方法	講 義		
単位数	9 単位		
時間数	270 時間		
学 科	柔道整復学科(夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	3 年間学習した基礎分野、専門基礎分野、専門分野の内容を体系的に結びつける。・接骨、医療、福祉、スポーツなど将来の社会貢献の場に応じ学んだ内容をどのように生かして行くのかを学び現場に適應できるようにし卒業試験、国家試験に合格する学力を修得することを目標とする。					
授業計画	柔整総合学習 (Ⅱ)					
	1	柔道整復学基礎	46	解剖学 基礎	91	衛生学・公衆衛生学発展
	2	柔道整復学 "	47	解剖学 "	92	衛生学・公衆衛生学 "
	3	柔道整復学 "	48	解剖学 "	93	衛生学・公衆衛生学 "
	4	柔道整復学 "	49	解剖学 "	94	衛生学・公衆衛生学 "
	5	柔道整復学 "	50	解剖学 "	95	衛生学・公衆衛生学 "
	6	柔道整復学臨床	51	解剖学 発展	96	リハビリテーション医学基礎
	7	柔道整復学 "	52	解剖学 "	97	リハビリテーション医学 "
	8	柔道整復学 "	53	解剖学 "	98	リハビリテーション医学 "
	9	柔道整復学 "	54	解剖学 "	99	リハビリテーション医学 "
	10	柔道整復学 "	55	解剖学 "	100	リハビリテーション医学 "
	11	柔道整復学 "	56	生理学 基礎	101	リハビリテーション医学発展
	12	柔道整復学 "	57	生理学 "	102	リハビリテーション医学 "
	13	柔道整復学 "	58	生理学 "	103	リハビリテーション医学 "
	14	柔道整復学 "	59	生理学 "	104	リハビリテーション医学 "
	15	柔道整復学 "	60	生理学 "	105	リハビリテーション医学 "
	16	国民医療費・倫理	61	生理学 発展	106	一般臨床医学基礎
	17	国民医療費・倫理	62	生理学 "	107	一般臨床医学 "
	18	国民医療費・倫理	63	生理学 "	108	一般臨床医学 "
	19	国民医療費・倫理	64	生理学 "	109	一般臨床医学 "
	20	国民医療費・倫理	65	生理学 "	110	一般臨床医学 "
	21	国民医療費・倫理	66	運動学 基礎	111	一般臨床医学発展
	22	国民医療費・倫理	67	運動学 "	112	一般臨床医学 "
	23	国民医療費・倫理	68	運動学 "	113	一般臨床医学 "
	24	国民医療費・倫理	69	運動学 "	114	一般臨床医学 "
	25	国民医療費・倫理	70	運動学 発展	115	一般臨床医学 "
	26	関係法規	71	運動学 "	116	外科学概論基礎
	27	関係法規	72	運動学 "	117	外科学概論 "
	28	関係法規	73	運動学 "	118	外科学概論 "
	29	関係法規	74	運動学 "	119	外科学概論 "
	30	関係法規	75	運動学 "	120	外科学概論 "
	31	関係法規	76	病理学概論基礎	121	外科学概論発展
	32	関係法規	77	病理学概論 "	122	外科学概論 "
	33	関係法規	78	病理学概論 "	123	外科学概論 "
	34	関係法規	79	病理学概論 "	124	外科学概論 "
	35	関係法規	80	病理学概論 "	125	外科学概論 "
	36	柔道 (講義)	81	病理学概論発展	126	整形外科学基礎
	37	柔道 (講義)	82	病理学概論 "	127	整形外科学 "
	38	柔道 (講義)	83	病理学概論 "	128	整形外科学 "
	39	柔道 (講義)	84	病理学概論 "	129	整形外科学 "
	40	柔道 (講義)	85	病理学概論 "	130	整形外科学 "
	41	包帯学	86	衛生学・公衆衛生学基礎	131	整形外科学発展
	42	包帯学	87	衛生学・公衆衛生学 "	132	整形外科学 "
	43	包帯学	88	衛生学・公衆衛生学 "	133	整形外科学 "
	44	包帯学	89	衛生学・公衆衛生学 "	134	整形外科学 "
	45	包帯学	90	衛生学・公衆衛生学 "	135	整形外科学 "
成績評価	卒業筆記試験 (満点 250)					
評価基準	必修問題 50 問 80 % 以上 一般問題 200 問 60 % 以上 の両方の合格					

分 野	専門分野		
教育内容	臨床柔道整復学		
講義名	柔整特講		
講義期間	講 義		
単位数	8 単位		
時間数	2 4 0 時間		
学 科	柔道整復学科 (夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	基礎分野、専門基礎分野、専門分野の内容をより広く、より深く学び国家試験に対する知識を修得する。・ 3 年間勉強した柔道整復師となるのに必要な知識を再学習し、国家試験合格の実力修得を目標とする。					
授業計画	1	国試対策：柔道整復学	46	国試対策：生理学	91	国試対策：一般臨床医学
	2	柔道整復学	47	生理学	92	一般臨床医学
	3	柔道整復学	48	生理学	93	一般臨床医学
	4	柔道整復学	49	生理学	94	一般臨床医学
	5	柔道整復学	50	生理学	95	一般臨床医学
	6	柔道整復学	51	国試対策：運動学	96	一般臨床医学
	7	柔道整復学	52	運動学	97	一般臨床医学
	8	柔道整復学	53	運動学	98	一般臨床医学
	9	柔道整復学	54	運動学	99	一般臨床医学
	10	柔道整復学	55	運動学	100	一般臨床医学
	11	国試対策：国民医療費・倫理	56	運動学	101	国試対策：外科学概論
	12	国民医療費・倫理	57	運動学	102	外科学概論
	13	国民医療費・倫理	58	運動学	103	外科学概論
	14	国民医療費・倫理	59	運動学	104	外科学概論
	15	国民医療費・倫理	60	運動学	105	外科学概論
	16	国試対策：関係法規	61	国試対策：病理学概論	106	外科学概論
	17	関係法規	62	病理学概論	107	外科学概論
	18	関係法規	63	病理学概論	108	外科学概論
	19	関係法規	64	病理学概論	109	外科学概論
	20	関係法規	65	病理学概論	110	外科学概論
	21	国試対策：柔道（講義）	66	病理学概論	111	国試対策：整形外科科学
	22	柔道（講義）	67	病理学概論	112	整形外科科学
	23	柔道（講義）	68	病理学概論	113	整形外科科学
	24	柔道（講義）	69	病理学概論	114	整形外科科学
	25	柔道（講義）	70	病理学概論	115	整形外科科学
	26	国試対策：包帯学	71	衛生学・公衆衛生学	116	整形外科科学
	27	包帯学	72	衛生学・公衆衛生学	117	整形外科科学
	28	包帯学	73	衛生学・公衆衛生学	118	整形外科科学
	29	包帯学	74	衛生学・公衆衛生学	119	整形外科科学
	30	包帯学	75	衛生学・公衆衛生学	120	整形外科科学
	31	国試対策：解剖学	76	衛生学・公衆衛生学		
	32	解剖学	77	衛生学・公衆衛生学		
	33	解剖学	78	衛生学・公衆衛生学		
	34	解剖学	79	衛生学・公衆衛生学		
	35	解剖学	80	衛生学・公衆衛生学		
	36	解剖学	81	リハビリテーション医学		
	37	解剖学	82	リハビリテーション医学		
	38	解剖学	83	リハビリテーション医学		
	39	解剖学	84	リハビリテーション医学		
	40	解剖学	85	リハビリテーション医学		
	41	国試対策：生理学	86	リハビリテーション医学		
	42	生理学	87	リハビリテーション医学		
	43	生理学	88	リハビリテーション医学		
	44	生理学	89	リハビリテーション医学		
	45	生理学	90	リハビリテーション医学		

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 % 以上合格

分 野	専門分野		
教育内容	柔道整復実技		
講義名	柔整柔道実技		
授業方法	実 技		
単位数	2 単位		
時間数	6 0 時間		
学 科	柔道整復学科(夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師、全日本柔道連盟公認指導者		

講義内容・目標	柔道実技および認定実技審査の柔道実技の課題を修得する。・礼法、礼節、受身、投げの形、乱取り、柔道の知識など卒業実技および認定実技審査の柔道実技の課題の合格基準に達するように反復練習を行い臨床的な技能を身につけ合格を目標とする。		
授業計画	1	基本的動作の修得：姿勢	
	2	基本的動作の修得：体捌き	
	3	基本的動作の修得：位置の取り方と移動	
	4	礼法（立礼）	
	5	礼法（座礼）	
	6	受け身①(前方回転受け身)	
	7	受け身②(対人受身)	
	8	投の形 礼法(立礼・坐礼)	
	9	投げ形 手技 浮 落	
	10	"	
	11	背負投	
	12	"	
	13	肩 車	
	14	"	
	15	腰技 浮 腰	
	16	"	
	17	払 腰	
	18	"	
	19	釣込腰	
	20	"	
	21	足技 送足払	
	22	"	
	23	支釣込足	
	24	"	
	25	内 股	
	26	"	
	27	約束乱取り：立 技	
	28	立 技	
	29	総合練習	
	30	総合練習	

成績評価	①柔道実技試験＜卒業実技試験＞ ②柔道実技試験＜認定実技審査＞
評価基準	①60点以上合格(100点満点) ②B以上の評価合格(3段階A～C評価)

分 野	専門分野		
教育内容	柔道整復実技		
講義名	臨床治療実技		
講義期間	実 技		
単位数	1 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	柔道整復学科(夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	臨床の現場で用いられる柔道整復師の種々の技術を学ぶ。・臨床で用いるカイロプラティック、スパイラルテーピングなどの実践的な技術と対象、効果、効能、注意事項を日常臨床に携わる柔道整復師から、より実践的に修得することを目標とする。		
授業計画	臨床治療実技 (IV)		
	1	徒手療法	
	2	"	
	3	"	
	4	"	
	5	スパイラルテーピング	
	6	"	
	7	"	
	8	"	
	9	カイロプラクティック	
	10	"	
	11	"	
	12	"	
	13	臨床柔整療法	
	14	"	
	15	"	

成績評価	学修成果評価
評価基準	6 0 点以上合格(1 0 0 点満点)

分野	専門分野		
教育内容	柔道整復実技		
講義名	柔整総合実技		
授業方法	実 技		
単位数	3 単位		
時間数	9 0 時間		
学 科	柔道整復学科 (夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	卒業実技および認定実技審査の柔道整復実技の課題を修得する。・診察、整復、検査、固定など卒業実技および認定実技審査の柔道整復実技の課題の合格基準に達するように反復練習行い臨床的な技能を身につけ合格することを目標とする。		
授業計画	1	診察及び整復実技：鎖骨定型的骨折	
	2	〃	
	3	：上腕骨外科頸外転型骨折	
	4	〃	
	5	：コーレス骨折	
	6	：肩鎖関節脱臼 [上腕脱臼：Tossy 分類の第 2 ～ 3 度]	
	7	：肩関節前方烏口下脱臼	
	8	：肘関節後方脱臼	
	9	：肘内障	
	10	診察及び検査実技：肩腱板損傷（ペインフルアークサイン）	
	11	：肩腱板損傷（インピンジメントテスト）	
	12	：上腕二頭筋長頭腱損傷（ヤーガソンテスト）	
	13	：上腕二頭筋長頭腱損傷（スピードテスト）	
	14	：ハムストリングス損傷 [肉ばなれ]（膝関節屈曲抵抗テスト）	
	15	：ハムストリングス損傷 [肉ばなれ]（股関節他動伸展テスト）	
	16	：大腿四頭筋打撲（膝関節他動屈曲テスト）	
	17	：大腿四頭筋打撲（膝関節自動伸展抵抗テスト）	
	18	：膝関節側副靱帯損傷（膝関節外反ストレステスト）	
	19	：膝関節側副靱帯損傷（牽引アブライテスト）	
	20	：膝関節十字靱帯損傷（前方引き出しテスト）	
	21	：膝関節十字靱帯損傷（ラックマンテスト）	
	22	：膝関節半月板損傷（マックマレーテスト）	
	23	：膝関節半月板損傷（圧迫アブライテスト）	
	24	：下腿三頭筋損傷 [肉ばなれ]（足関節他動背屈テスト）	
	25	：下腿三頭筋損傷 [肉ばなれ]（足関節自動底屈抵抗テスト）	
	26	：足関節外側側副靱帯損傷（前方引き出しテスト）	
	27	：足関節外側側副靱帯損傷（内反ストレステスト）	
	28	固定能力の実技：鎖骨骨折 [リング固定・8 字帯固定・Sayre テープ固定]	
	29	：上腕骨骨幹部骨折 [ミッドドルフ三角副子固定]	
	30	：コーレス骨折 [クラーメル副子と局所副子・三角巾固定]	
	31	：第 5 中手骨頸部骨折 [アルミ副子掌側固定]	
	32	：下腿骨骨幹部骨折 [クラーメル副子固定]	
	33	：肋骨骨折 [さらしと厚紙副子固定]	
	34	：肩鎖関節上方脱臼 [テープ固定]	
	35	：肩関節前方脱臼 [局所副子・三角巾固定]	
	36	：肘関節後方脱臼 [クラーメル副子・三角巾固定]	
	37	：手第 2 指 PIP 関節背側脱臼 [アルミ副子背側固定]	
	38	：アキレス腱断裂 [クラーメル副子固定]	
	39	：足関節外側側副靱帯損傷 [局所副子固定]	
	40	：膝関節内側側副靱帯損傷 [X サポートテープ固定]	
	41	：足関節外側側副靱帯損傷 [バスケットウィーブテープ固定]	
	42	：足関節外側側副靱帯損傷 [フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定]	
	43	総合練習	
	44	総合練習	
	45	総合練習	

成績評価	①柔道整復実技＜卒業実技試験＞	②柔道整復実技＜認定実技審査＞
評価基準	① 各実技項目 6 0 点以上合格（満点 1 0 0）② B 評価以上で合格（A ～ C 3 段階評価）	

